

河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究 —日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) の 2020 年度活動報告—

Report on the development of exchange platform for information sharing and collaboration toward river restoration

- 2020 Activities of the Japan River Restoration Network -

水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 和田 彰
 審議役 土屋 信行
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 澤田みつ子
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史
 自然環境グループ 研究員 白尾 豪宏

1. はじめに

当研究所が事務局を担う「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報交換・共有を通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して 2006 年より活動している。また JRRN は「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の事例情報等を日本国内に還元している。

本稿では、2020 年度に JRRN が取組んだ川づくりに関わる情報共有基盤の整備、及び川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発活動について報告する。

なお、2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、毎年実施する国際活動は実施できなかった。

2. 2020 年度の JRRN 活動内容

2-1 川づくりに関わる情報共有基盤の整備

国内外の川づくりに関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、JRRN/ARRN ウェブサイト、facebook 及び YouTube 等の SNS、ニュースメールやニュースレター等を通じて広く社会に発信した (表-1)。

また、JRRN 会員や海外連携機関からの川づくりに関わる各種提供情報の共有を図り、川づくりに関わる情報の普及に努めた。

但し、SNS 及びニュースメールについては、システムの不具合等で一部会員に届けることができておらず、システム更新など JRRN の情報共有基盤の改善を図っていく。

表-1 2020 年度 情報共有の活動実績 ※ () 前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ウェブサイト	随時	191 件 (242 件)
facebook	随時	18 件 (234 件)
ニュースメール	毎週配信	49 回 (50 回)
ニュースレター	毎月発行	12 回 (12 回)

2-2 川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援

JRRN では、川づくりの担い手を増やし応援することを目的に、2014 年より「小さな自然再生」研究会の運営幹事として、市民が河川や水路の管理者と連携し日曜大工的に自然を再生する「水辺の小さな自然再生」の普及促進に取組み、講演会や現地研修会等の交流行事の開催、事例集やウェブサイト、データベース等の支援ツールを制作・普及している。

2020 年度は、過年度に制作した水辺の小さな自然再生事例集の普及及びシリーズ研修会を企画・開催した。

(1) 水辺の小さな自然再生事例集 “第2集” 普及

全国の小さな自然再生の担い手の協力を得て、最新の知見や新規 14 事例を盛り込んだ「水辺の小さな自然再生事例集 第2集」を 2020 年 3 月に発刊し、冊子版及び電子版を全国に普及した (図-1)。



図-1 事例集 (第2集) 表紙

(2) 小さな自然再生現地研修会のシリーズ開催
水辺でできる小さな自然再生の技術向上を目的に、2015年より「小さな自然再生」現地研修会をシリーズ開催している(図-2)。



図-2 これまでの現地研修会開催実績(全11回)

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から当初予定していた規模を縮小し、各開催地の共催及び協力団体関係者、座学講義講師や現地技術指導役として協力頂いた「小さな自然再生」研究会の専門家チームの協力を得て、全3回の現地研修会を2020年11月に連続開催した(表-2、写真-1)。

表-2 全3回の現地研修会開催概要

行事名	第9回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2020年11月13日(金)
開催場所	愛知県名古屋市中区・矢田川
主テーマ	事前モニタリングで学ぶ土砂移動
主催	愛知県建設局河川課、矢田・庄内川をきれいにする会、「小さな自然再生」研究会、JRRN
参加人数	37名
行事名	第10回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2020年11月24日(火)
開催場所	秋田県大仙市・齊内川
主テーマ	多自然をモニタリングする
主催	(公社)全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会秋田県支部、「小さな自然再生」研究会、JRRN
協力	秋田県建設部河川砂防課、奥山ポーリング(株)
参加人数	33名
行事名	第11回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2020年11月28日(土)
開催場所	京都府美山町・美山川(由良川上流)
主テーマ	森と川の繋がりを考える
主催	NPO法人芦生自然学校、「小さな自然再生」研究会、JRRN
協力	美山漁業協同組合
参加人数	32名



写真-1 愛知(左上)、京都(右上)、秋田(下段)

(3) 小さな自然再生現地研修会の成果普及

現地研修会成果の普及を目的として、全3回の研修会概要を紹介したショートムービー(各5分程度)を制作し、JRRNの公式YouTubeページに公開した。また、当日の講演や現地演習の様子、講演資料や簡易調査記録速報を集約した全3回の開催報告書を作成し、ウェブサイト上に公開した(図-3)。



図-3 研修会成果の動画及び報告書での公開

3. おわりに

川づくりを取り巻く社会情勢は2006年のJRRN設立当初から大きく変化し、SDGs、水防災意識社会構築、流域治水、グリーンインフラなど新たなテーマへの順応性が課題と認識している。また、SNSをはじめとする情報共有に関わる新たなツールの普及により、利用者の情報獲得方法も変わる中、情報共有と協働のあり方についても大胆な見直しが求められており、今後も新たな挑戦を含む持続発展的な活動を展開していく。

なお、JRRNの諸活動は、JRRN/ARRN会員や国内外の連携機関との協働で成り立っている。また、水辺の小さな自然再生の普及促進活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受け、「小さな自然再生」研究会や自治体等との協働で実施した。当活動にご支援・ご協力頂いた皆様に厚く感謝を申し上げます。